

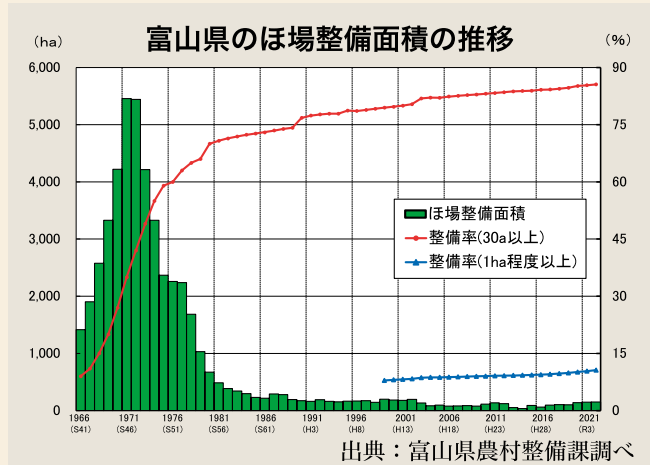
4 地域を支える担い手を育成する農地の大区画化等の推進

- 農作業の省力化や米の生産コスト低減に資する農地の大区画化等を推進します。
- 意欲ある地域農業の担い手を育成し、農地整備とあわせて担い手への農地の集積・集約化を進めることにより、経営規模を拡大し経営効率の向上を図ります。

現状と課題

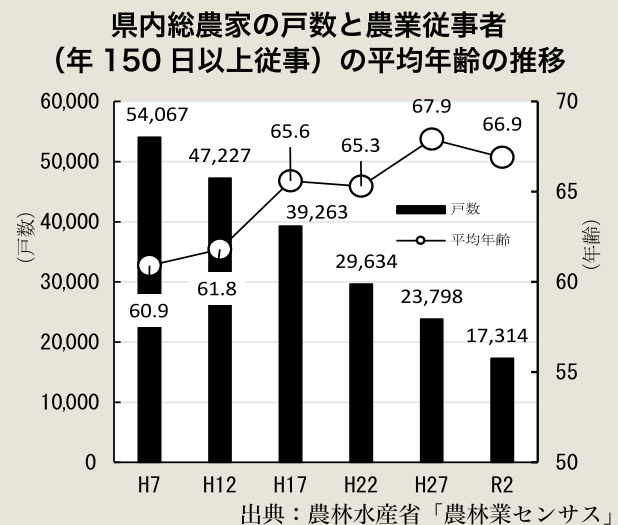
■ほ場整備の状況

- 生産性の高い優良農地を確保するため、昭和30年代から全国に先駆けて30a区画を標準としたほ場整備を進めてきた結果、ほ場整備率は85.4%と全国4位(R3)となっています。
- しかしながら、1ha程度以上の大区画整備率は10.4% (R3)にとどまっている状況です。

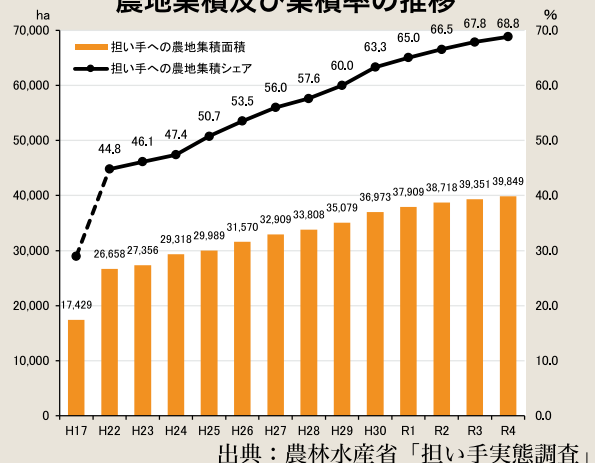


■担い手への農地集積の状況

- ライフスタイルの変化によるコメ消費量の減少や、担い手の高齢化等人手不足の深刻化に加え、国際貿易の新たなルールづくりの進展、SDGsを契機とした持続可能な取組みなど、現在の農業を取り巻く状況は厳しさを増しています。
- 土地需要の高まりによる農地転用の増加や、荒廃農地等の発生により優良農地が減少する中、農作業の省力化やさらなる米の生産コスト低減を図るためには、担い手への農地集積が重要です。
- 本県の農地集積率は68.8% (R4)と全国6位となっていますが、全国目標値の8割には届いておらず、更なる集積・集約化の推進が必要です。
- 農地集積を促進するための法律である「農業経営基盤強化促進法」の改正により、地域の話し合いにより目指すべき将来の農地利用の姿を明確化する地域計画を定める必要があります。



富山県内耕地面積に占める担い手への農地集積及び集積率の推移



農業経営基盤強化法 (令和4年5月改正)

人・農地プラン
(地域農業の将来の在り方)

地域計画
(地域農業の将来の在り方+目標地図)

新規就農者等の多様な担い手を含めて目標地図を作成

目標指標

目標指標名	現状 (R4 年度)	中間 (R8 年度)	目標 (R13 年度)	効果
ほ場整備面積 (30a 以上)	45,662ha	46,100ha	46,800ha	ほ場整備により経営効率を向上
大区画ほ場整備面積 (1ha 程度以上)	5,648ha	6,300ha	7,400ha	1ha 程度以上の大区画化により経営効率をさらに向上

取組内容

●生産コストの削減を図る大区画化等の推進

- 平地や中山間などの地域の実情に応じた農地の大区画化等を推進します。
- 農業経営の法人化・大規模化にあわせて大型機械を導入し、農作業の省力化による生産コストの削減を図ります。
- 大区画化を通して、担い手への農地の集積・集約化を推進します。



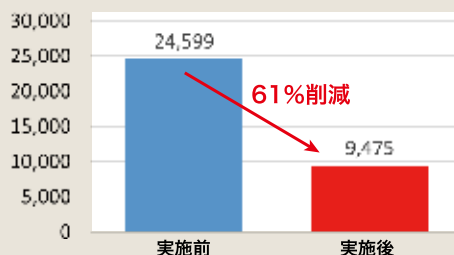
大区画化された農地
(水橋三郷北地区 富山市)

農業機械の大型化の例

- トラクタ 30 → 60 馬力
- 田植機 5 → 8 条
- コンバイン 3 → 6 条

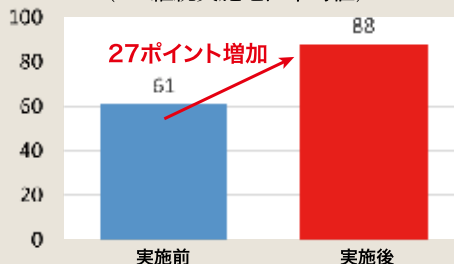


米の生産コスト (円 / 60kg) (TPP 対策要件達成地区平均値)



出典：富山県農村整備課調べ

担い手への集積率 (%) (R3 継続実施地区平均値)



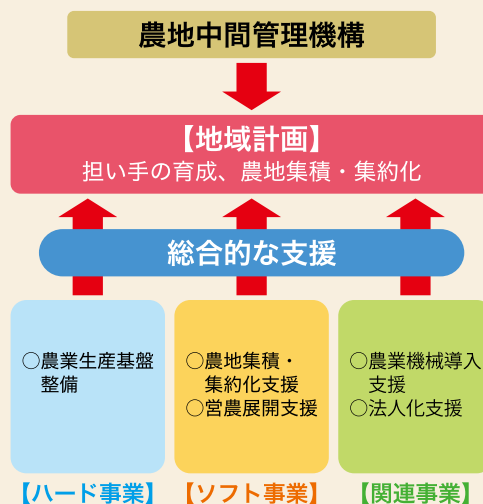
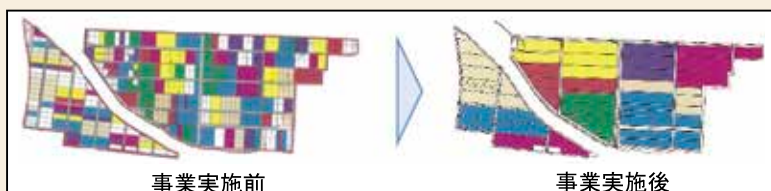
出典：富山県農村整備課調べ

●担い手の育成や集積・集約化等を推進するための活動支援

- 地域の話し合いを通じて、将来の在り方等を定めた地域計画に基づき、担い手への農地の集積・集約化の加速化を図るため、農地中間管理機構[※]と連携した農地整備を推進します。
- ハード事業（大区画等の生産基盤整備）とソフト事業（農地の集積・集約化の推進、収益性向上に資する営農展開支援など）をあわせて行う農地整備を着実に実施します。

(関連事業)

- ・経営規模拡大に必要な農業機械や営農施設等の整備の支援
- ・法人化に向けた活動や増大する事務処理負担軽減への支援
- ・農地中間管理機構を通じた農地集積・集約化の促進支援
- ・地域計画の策定に向けた取組みを支援



※「参考資料 III用語解説」を参照

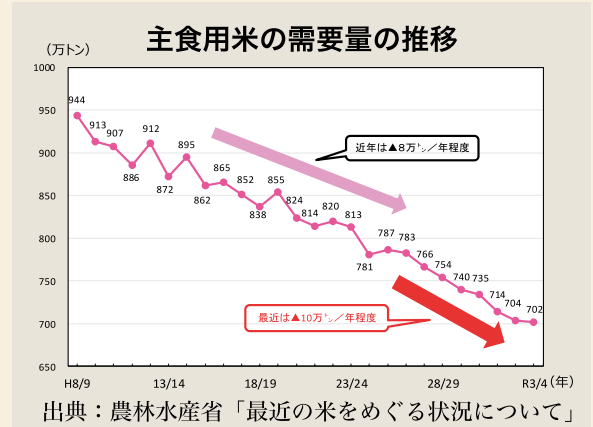
5 消費者のニーズに対応した農産物の生産を図る汎用化等の推進

- 需要に応じた米生産と水田フル活用を促進するための農地の汎用化等を推進します。
- 農地の汎用化を活かした収益性の高い農業生産を行う経営体の育成に向けて、関係機関が連携して支援します。

現状と課題

■消費者ニーズに対応した営農の転換

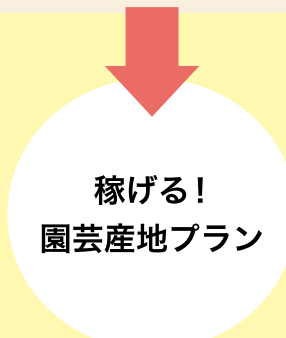
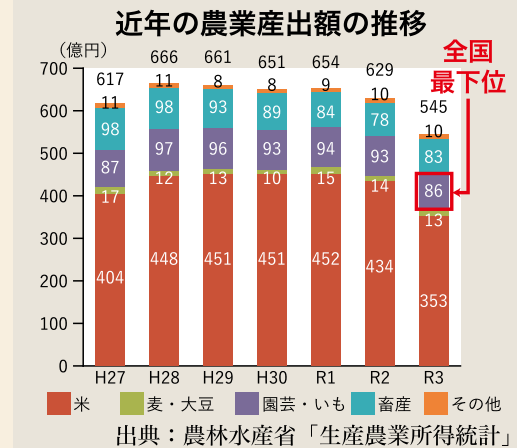
- 本県は全国1位の水田率95.3%(R3)であり、最近、主食用米の需要が毎年10万t程度減少していることから、需要に応じた米生産を推進する必要があります。
- 水田の中には排水不良で畑作物の作付に適していないほ場も存在しており、米以外の作物への転換や、畑作物の作付拡大の妨げとなっています。
- 農業の成長産業化に向け、高収益作物を中心とした営農体系への転換など、農業所得の向上を図る汎用化整備(暗渠排水・客土)に取り組む必要があります。
- 高収益作物を導入するにあたっては、地域の営農計画や地形・土質条件に応じた、地域に根付いた営農として定着するようきめ細やかな基盤整備を推進する必要があります。



湧水などによる排水不良田

■産地形成の必要性

- これまで「1億円産地づくり」などの産地育成や、生産性向上に必要な機械・施設の導入支援などにより、省力機械体系を確立した品目を中心に着実に取組面積が増加してきたものの、園芸生産額は86億円(R3)と、全国で最下位の生産額となっています。
- 農業経営の安定化を図るためには、地域特性や需要に応じ、非主食用米、麦・大豆、園芸作物等を組み合わせた営農計画を作成し、生産性、収益性の向上を図る必要があります。



稼げる！
園芸産地プラン

- 水田での園芸生産の拡大や次世代まで続く園芸産地の育成を支援するため、市町村において「稼げる！園芸産地プラン」を策定。
- 各市町村管内の園芸産地の特性や産地を構成する農業者の意向を踏まえ、産地ごとに目指すべき具体的な姿(目標)を定め、経営体の育成や園芸産地の拡大・強化を図る。
 - 具体的に市町村は、JA、農業者等と、協議・連携の上、①各産地の現状及び目標 ②目標を達成するための市町村の取組み ③目標を達成するための産地の取組み についてプランを策定。
 - プランの策定にあたっては、県の園芸振興基本方針、地域計画等との整合を図る。

目標指標

目標指標名	現状 (R4 年度)	中間 (R8 年度)	目標 (R13 年度)	効果
暗渠排水整備	7,299ha	7,800ha	8,300ha	水田における園芸作物の導入

取組内容

● 需要に応じた園芸作物等の生産を可能にする水田の汎用化・畑地化の推進

- 水田農業の基幹作物として、需要に応じた麦・大豆・園芸作物等の計画的なブロックローテーションを可能とする暗渠排水等の汎用化を図ります。
- 地域に根付いた営農計画を作成し、収益性の高い営農となるよう水稻から畑作物・園芸作物への転換に必要な暗渠排水や客土、パイプライン化、畑地かんがい等の基盤整備を推進します。



園芸作物等生産に資する暗渠排水の整備



加工用キャベツの収穫 (高岡市)



ニンジンの収穫 (南砺市)

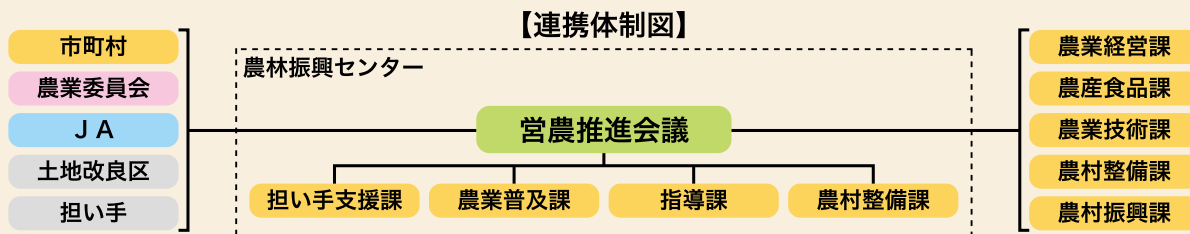
高収益作物の導入

● 地域農業の将来ビジョン「ひと・とち・もの」を具現化するための支援

- 基盤整備事業実施地区においては、新たな園芸産地の形成や生産拡大に向け、生産から販売までの一貫的な支援を行うため、農林振興センターが中心となり、行政、JA、土地改良区等が連携して**実効性のある営農計画**を策定し、行政が伴走しながら、地域に根付いた収益性の高い営農の定着に取り組んでいきます。

実効性のある営農計画

- 誰が、「ひと」
- どこで、「とち」
- 何をやるのか「もの」



「ひと」 農業経営の高度化・複合化と担い手の育成

- ・ 「とやま型農業経営モデル」の普及・啓発（地域を担う法人経営体で主穀作（水稻・大麦・大豆）と園芸等を組み合わせ、周年的に所得と人材を確保する経営モデル）

「とち」 消費者に求められる競争力ある農産物の生産基盤づくり

- ・ 「稼げる！園芸産地プラン」等による大規模な産地形成のための支援など市町村による園芸生産を推進するためのプランの策定や実現に向けた取組みを支援

「もの」 農産物のブランド力向上と販路の開拓・拡大

- ・ 「食のとやまブランド」の推進とマッチング支援を県内外に展開
- ・ 「輸出プラットフォーム」を形成し海外ニーズが見込まれる農林水産物等の商流・物流の創出・拡大を促進



6 スマート農業に対応した基盤整備の推進

- 担い手の減少や高齢化が進む中、農作業の省力化や農業経営の高度化を図るためのスマート農業技術*の導入が必要となっています。
- スマート農業技術を最大限発揮するための基盤整備を推進します。

現状と課題

■自動走行農機等のスマート農業技術の導入

- 担い手の減少・高齢化が進む中、生産力を維持するための労働力不足が深刻化しています。
- 農作業は依然として人手に頼っている作業が多く、熟練農業者の技術継承が課題となっています。
- 農作業の省力化・効率化を図るためのロボットトラクタやロボット草刈機等のスマート農業技術の研究・実証が進んでいます。
- 限られた作期の中で1人当たりの作業可能面積を拡大するとともに、長時間にわたり高い作業精度の維持が可能となる自動走行農機などの先進技術の導入や利用促進が不可欠となっています。
- ターン農道や幅広畦畔、農業用水路のパイプライン化やICT自動給水栓の導入については、県内の先進事例や他県の情報収集しつつ、県内他地区へ波及させる必要があります。
- 自動走行農機の走行に不可欠な高精度な測位や遠隔監視のため、情報通信環境の整備が必要となっています。

「誰もが取り組みやすい効率的な農業」
を目指した取組み

- 県では令和4年3月に「富山県スマート農業推進方針」を策定し、スマート農業技術等の導入を推進
具体的には、スマート農機やICT水管理技術の導入を可能とする基盤整備を行い、

- ①作業の省力化、生産性の向上
- ②農機のアシスト機能、自動化機能による作業の軽労化、安全性向上
- ③遠隔監視による移動時間の短縮
- ④省力技術による生産性の向上と環境負荷低減技術による持続的生産体系への転換等を図ることとしている。

【ロボットトラクタ】10a当たりの耕起作業時間
(分/10a) (富山市実証 (R2-R3))



(協調の作業時間は、有人と無人ロボットトラクタの作業時間から推計したもの)

【ロボット草刈機】10a当たりの除草作業時間
(時間/10a) (富山市実証 (H30-R1))



出典：富山県スマート農業推進方針

【パイプライン+自動給水栓】
水管理にかかる作業時間



出典：ICTを用いて省力・最適化を実現する圃場水管理システムの開発 農研機構 若杉晃介・鈴木 翔、農業農村工学会誌、85 (1) 11-14、2017

目標指標

目標指標名	現状 (R4 年度)	中間 (R8 年度)	目標 (R13 年度)	効果
スマート農業に対応した基盤整備面積	702ha	1,320ha	2,100ha	計画的なスマート農業技術の導入

取組内容

●スマート農業技術を最大限発揮する基盤整備の推進

- 自動走行農機等の効果を十分に発揮するためには、ほ場の大区画化が効果的であり、引き続き、農地の大区画化を推進します。
- 中山間地域等においては、農業用水路のパイプライン化や自動給水栓の導入など、地形条件等を踏まえて、農作業の省力化を進めます。
- 今後の農地整備においては、地域の実情に応じた、スマート農業技術等の導入に対応した基盤整備を推進します。

スマート農業に対応した基盤整備の例

整備内容	効果
大区画化	効率的な営農、自動走行農機の効果最大化
用排水路の管路化、ターン農道	安全性向上、円滑な移動、管理省力化、旋回回数の減少、スムーズな移動
自動給水栓	管理省力化、安全性向上
地下かんがい	汎用化、園芸の拡大
幅広畦畔、畦畔法面	管理省力化、安全性向上
自動走行に必要な環境整備、通信技術等	正確性向上、使用可能な農機の増

出典：自動走行農機等に対応した農地整備の手引き（農林水産省）



幅広畦畔とトラクタ草刈り



ロボット草刈機



ターン農道（舟川新地区 朝日町）



自動給水栓（種田地区 砺波市）



ため池を活用した農業用水の
パイプライン化（中村地区 氷見市）

農業用水路への転落防止安全対策にも寄与

●将来を見据えた取り組み

- 地域の話し合いを通じて、10年後を見据え、実効性のある営農計画に基づきスマート農機の活用等による作業の省力化、生産性の向上を図るための基盤整備を進めるとともに、効果が大きい技術は、現地実証試験等を行いながら導入を図ります。

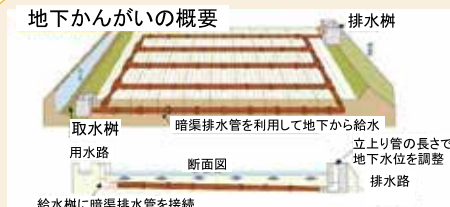
水橋地域において、農研機構によるロボットトラクタのほ場、農道走行の実証
 ○遠隔監視で安全性を確保
 ○農道を無人で移動し、複数ほ場で連続的に作業

1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
				水稲												さといも							
たまねぎ						にんじん													キャベツ				

ブロックローテーション

ブロックローテーションを活用した野菜の栽培実証
 ・地下かんがいの有効性確認
 ・栽培マニュアルの作成 等

地下かんがいの概要



国営水橋地区での高収益作物の一大産地化に向けた取組み



無人ロボットトラクター